

第10回 訓練シナリオ開発ワーキンググループ議事概要

1. 日時：令和5年3月24日 13:30～15:10
2. 場所：原子力規制庁 ERC
3. 出席者（テレビ会議システムで参加）
 - 原子力規制庁
 - 古金谷緊急事態対策監
 - 緊急事案対策室
 - 川崎企画調整官、反町専門職、澤村防災専門官、川本専門職、宮田専門職
 - 北海道電力株式会社
 - 原子力事業統括部 原子力業務グループ 副主幹 他7名
 - 東北電力株式会社
 - 原子力本部 原子力部 課長（原子力防災担当） 他7名
 - 東京電力ホールディングス株式会社
 - 原子力運営管理部 部長 他5名
 - 中部電力株式会社
 - 原子力部 防災・核物質防護グループ グループ長 他3名
 - 北陸電力株式会社
 - 原子力本部原子力部原子力防災チーム 統括（課長） 他2名
 - 関西電力株式会社
 - 原子力事業本部 原子力安全・技術部門 安全・防災グループ チーフマネージャー 他4名
 - 中国電力株式会社
 - 電源事業本部原子力運営グループ マネージャー 他3名
 - 四国電力株式会社
 - 原子力本部 管理グループ グループリーダー 他6名
 - 九州電力株式会社
 - 原子力発電本部 原子力防災グループ グループ長 他12名
 - 日本原子力発電株式会社
 - 発電管理室 警備・防災グループ 部長 他1名
 - 原子力エネルギー協議会
 - 副長
4. 議題
 - 議題1 令和4年度におけるI型訓練の取り組みについて

議題 2 令和 4 年度における II 型訓練の取組について

議題 3 その他

5. 議事要旨

議題 1 令和 4 年度における I 型訓練の取組について

令和 4 年度の I 型訓練（発電所の指揮者の判断能力向上のための訓練）の訓練実績及び令和 4 年度 I 型訓練の基本シナリオについて議論し、主に以下の事項を合意した。

（資料 1-1-1 から資料 1-5-4）

- 訓練実績の評価において、共通的に抽出すべき良好事例のみではなく、個別の発電所で見いだされた良好事例についても、他の発電所に展開すべきものを抽出する。
- PWRの基本シナリオについては案 1 を、BWRの基本シナリオについては東北電力シナリオ案をそれぞれ採用することとする。
- 次回の訓練シナリオ開発ワーキンググループにおいて、本日の報告に間に合わなかった訓練実績を含め、訓練実施計画及び令和 5 年度における訓練実施方針を議論し、これらを訓練報告会で報告をする。

議題 2 令和 4 年度における II 型訓練の取組について

令和 4 年度の II 型訓練（現場対応能力向上のための訓練）の訓練実績及び令和 4 年度 II 型訓練のシナリオについて議論し、主に以下の事項を合意した。

（資料 2-1-1 から資料 2-3）

- II 型訓練については、多様なマルファンクションを付与するなど実動訓練の高度化を図るために実施している。一方で、昨年度より事業者防災訓練の評価指標を見直し、より難易度の高い実動訓練の実施を求めており、実際に事業者防災訓練における実動訓練の難易度も向上していることが確認されている。今後、事業者防災訓練との統合等による合理化も視野に入れ、訓練等のあり方の検討のなかで議論していく。
- 令和 4 年度 II 型訓練実施要領に示された訓練のテーマに基づき訓練を実施する。
- 次回の訓練シナリオ開発ワーキンググループにおいて、本日の報告に間に合わなかった訓練実績を含め、訓練実施計画及び令和 5 年度における訓練実施方針を議論し、これらを訓練報告会で報告をする。

議題3 その他

訓練シナリオ開発ワーキンググループの事業者主体への移行に関して原子力事業者から報告があった。

また、原子力規制庁から、この訓練シナリオ開発ワーキンググループは事業者主体による運営が望ましいこと、訓練等のあり方の意見交換をとおして、訓練に係る中期計画の自主的な策定や事業者間ピアレビューの実施等、事業者主体の訓練の実施について議論が交わされているが、訓練シナリオ開発ワーキンググループに組み込めるものもあると考えられることから、I型・II型訓練のみを議論するという枠にとらわれず、訓練シナリオ開発ワーキンググループの全体像や仕組みを再整理したうえで、次回の会合で議論したい旨伝えた。

以上